

参議院自由民主党

不安に寄り添う政治のあり方勉強会

地域が有する「不安」の 実態

作野広和

島根大学教育学部共生社会教育専攻
教授



I はじめに ～教育・研究の概要～

教育 : 島根大学教育学部共生社会教育専攻 (地理学担当)

研究 : 中山間地域に関する研究 集落・コミュニティに関する研究



I はじめに ～教育・研究の概要～
研究 : 研究室の分室「ラボ」



「松平ラボ」(江津市)



「さだラボ」
(出雲市佐田町)



「邑南ラボ」(邑南町)

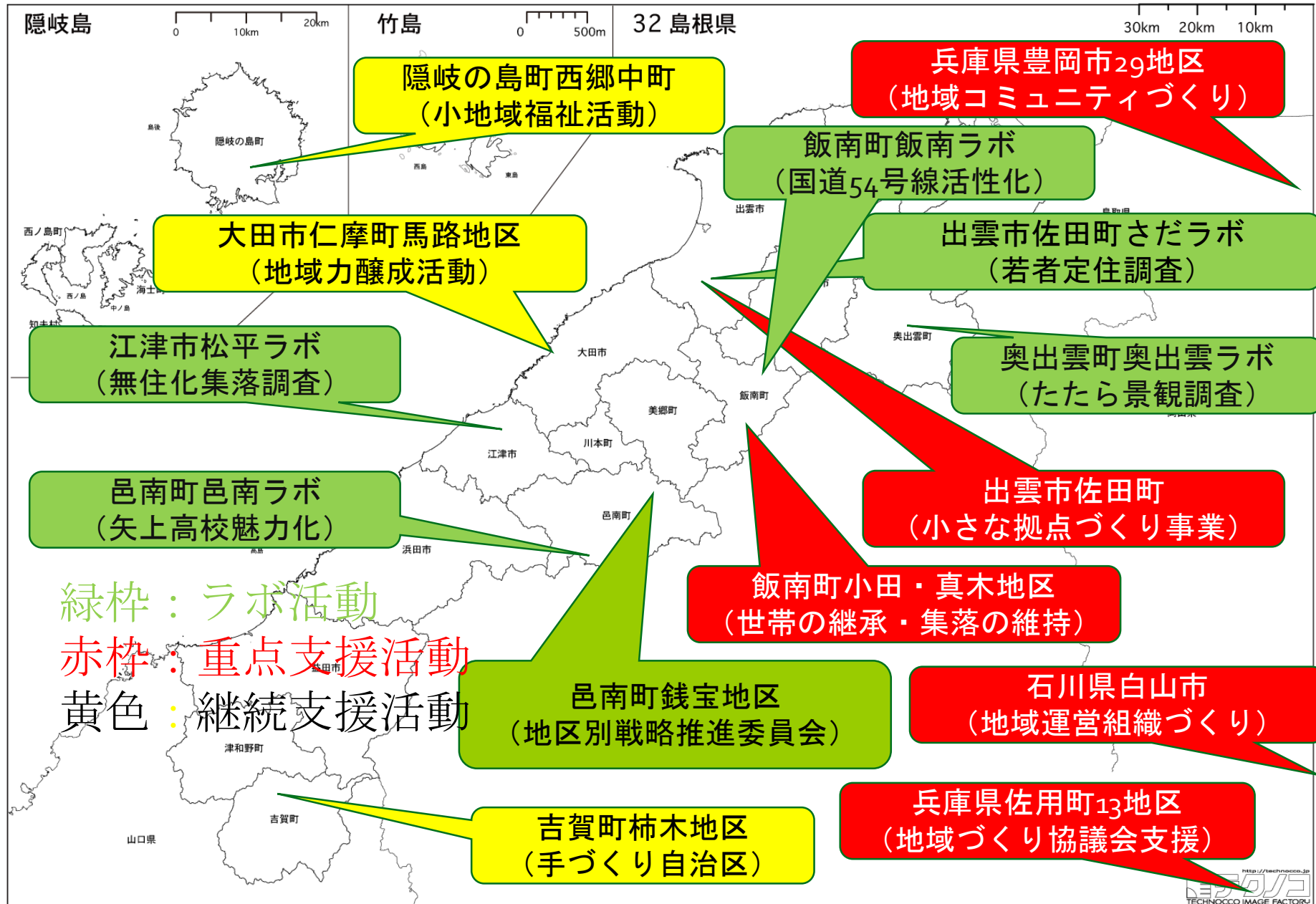


「飯南ラボ」(飯南町)



「奥出雲ラボ」
(奥出雲町)

2019年度 地域づくり支援活動地区



Ⅱ 限界集落・無住化集落の実態とその対応

全国各地で共通する「困り事」→少しでも解決することが「地域づくり」

若者が出ていって
どんどん人が
少なくなる



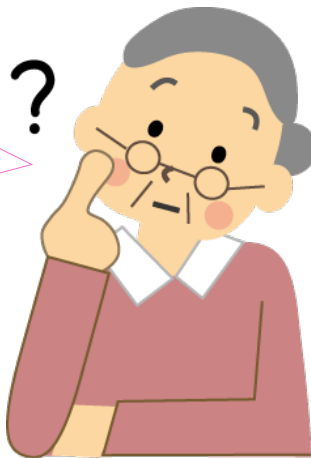
集落の役員の
なり手がいない



どの会合もだいた
い同じ人ばかり



婦人会活動はしたい
けど、だれも役員は
したがない



車が運転できるうちは
何も不自由がないけど
この先を考えると不安



ご近所にお声掛け
したいけど、
プライベートな
ことに関わってい
いのかしら

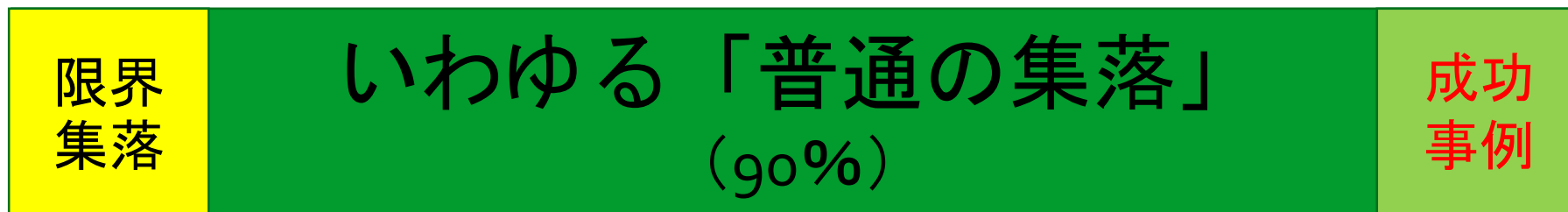


だれかが、どこかで、少しでも解決しなければますます住みづらくなる

Ⅱ 限界集落・無住化集落の実態とその対応 報告の対象と問題意識

いわゆる「限界集落」に至っては、
「見て見ぬふり」が続けられてきた
↓
「限界集落」という表現を用いなくても
「**集落の限界化**」は継続している。

中山間地域の集落



5 %



報告前半の対象

5 %

地域活動「支援」の対象（報告後半の対象）

ちなみに
中国地方の人口は744万人
全人口の5.85%
（島根県は69万人， 0.54%）

多くの研究や政策は「成功事例」を学ぶべきだと主張する



しかし、それは簡単なようで難しい
なぜなら、各地域にはそれぞれの地域的文脈があるから
地域づくりに大切なことは「**普通の集落**」にどう向き合うかである

II 限界集落・無住化集落の実態とその対応

集落住民の感覚：「安心」と「不安」の同居



安心

<安心要素>

- 自助
 - ・家族が近くに在住
- 共助
 - ・近所の人による支援
- 公助
 - ・地域公共交通の存在
 - ・診療所の存在
 - ・福祉サービスの享受
- 市場
 - ・移動販売車の来訪
 - ・ネット販売の利用 等

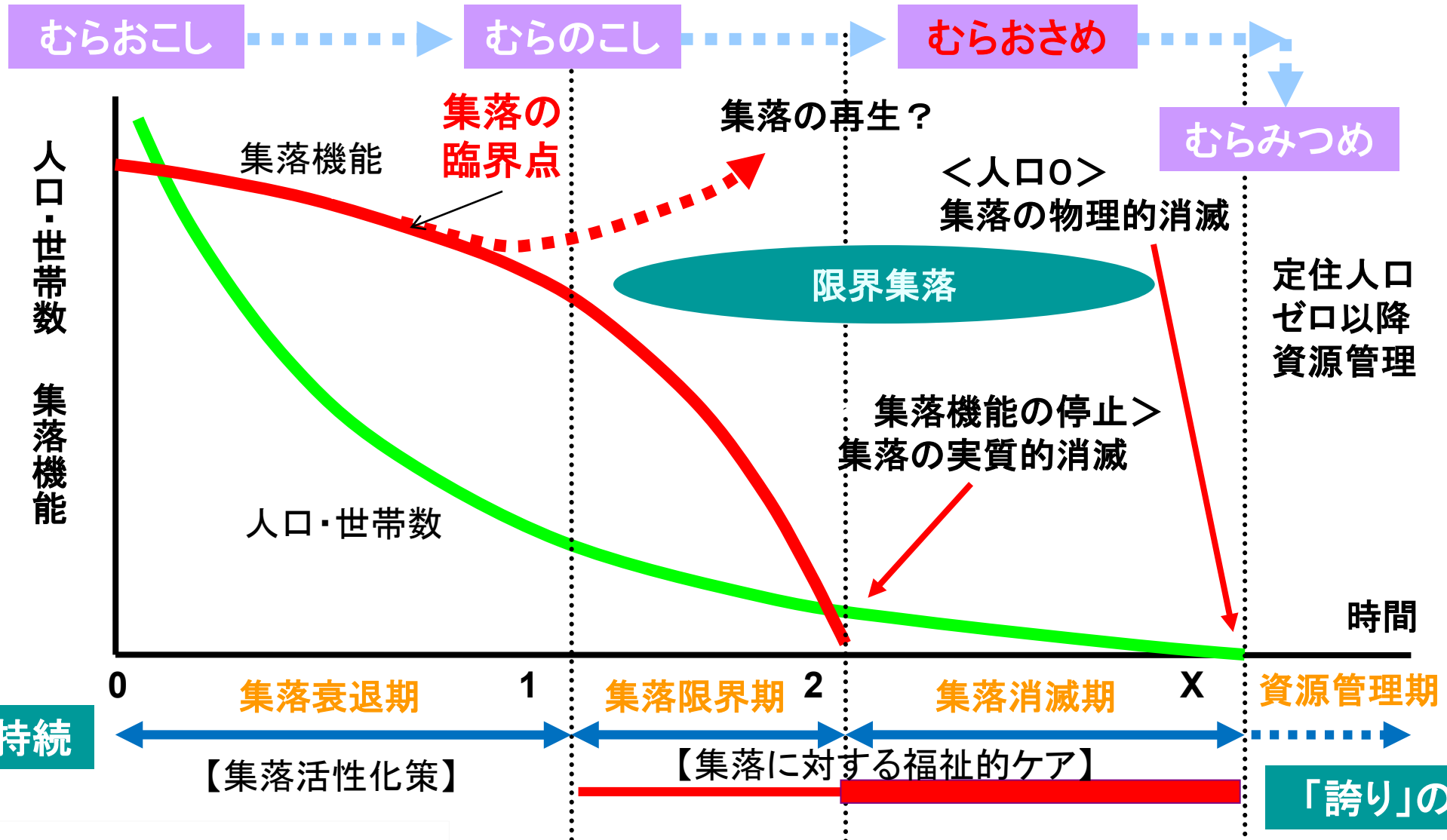
不安

<不安要素>

- 自助
 - ・家族に対する遠慮
- 共助
 - ・地域住民の高齢化
- 公助
 - ・末端切り捨てへの不安
- その他
 - ・災害時の不安
 - ・訪問販売・詐欺等への不安



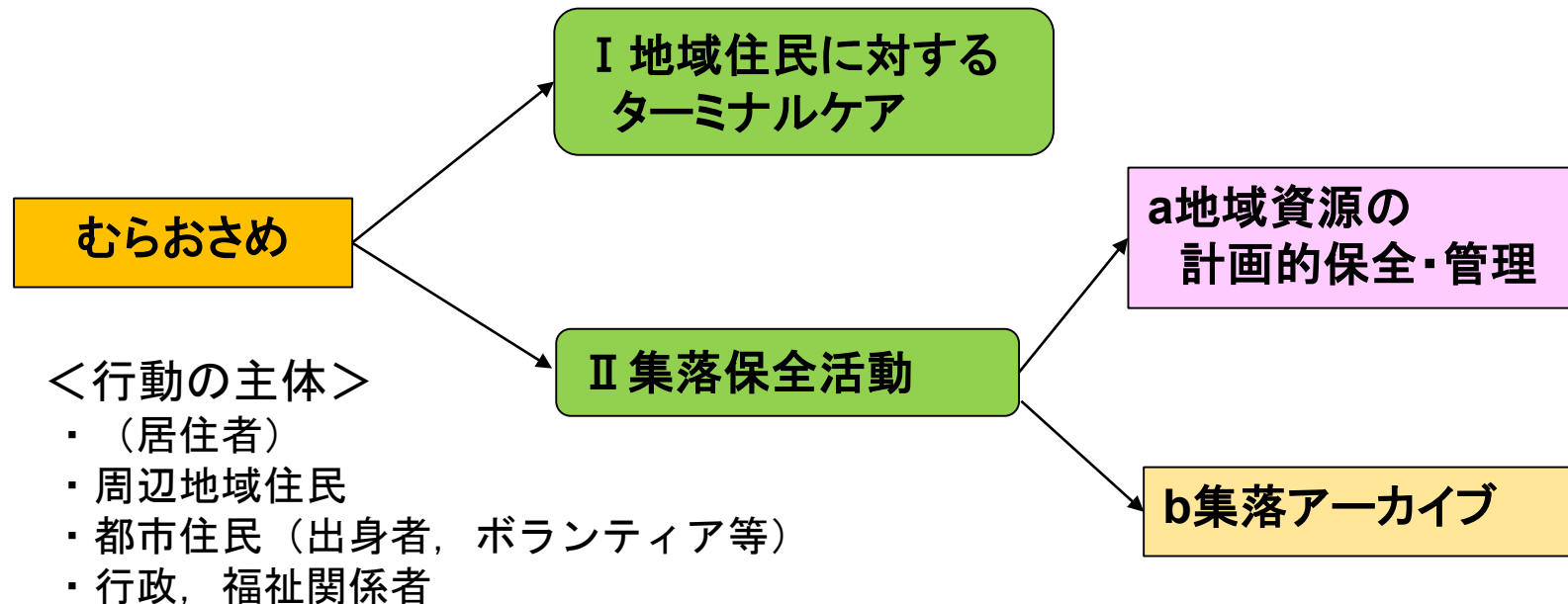
II 限界集落・無住化集落の実態とその対応 集落の小規模・高齢化と無住化のプロセス



Ⅱ 限界集落・無住化集落の実態とその対応 「むらおさめ」の概念

■「むらおさめ」とは

「集落の小規模・高齢化により、**集落機能が著しく低下ないしは消失**し、当該集落の**無住化が確実視**される状況において、行政機関や他地域住民が積極的に関わりを持ち、**居住者のQOL（生活の質）を維持**するとともに、無住化までに実施すべき**集落保全活動**を積極的に行っていく主体的行動」



Ⅱ 限界集落・無住化集落の実態とその対応

「むらおさめ」の対象となる集落：全体の5%程度



集落の「看取り」

主体：集落住民以外

「むらおさめ」

主体：集落住民

+

集落外住民

+

行政・NPO等

(「過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査」2011年3月，総務省・国土交通省発表より作成)

むらおさめ：「どうしても守れない集落」に対するターミナルケア

Ⅲ コミュニティの崩壊と住民自治機能の硬直化 人口減少社会における団体自治と住民自治の縮小

行政
(団体自治)

今後も維持していく必要がある部分

縮小していかざるを得ない部分

この部分についてなんとかしないといけない
政治・行政が知恵を出す部分

地域
(住民自治)

今後も底力で対応していく部分

人口減少・高齢化等で
地域力が弱まる部分

行政が機能代替して
いた部分

地域の力が弱まる中で、頼る先がない。だからといって…

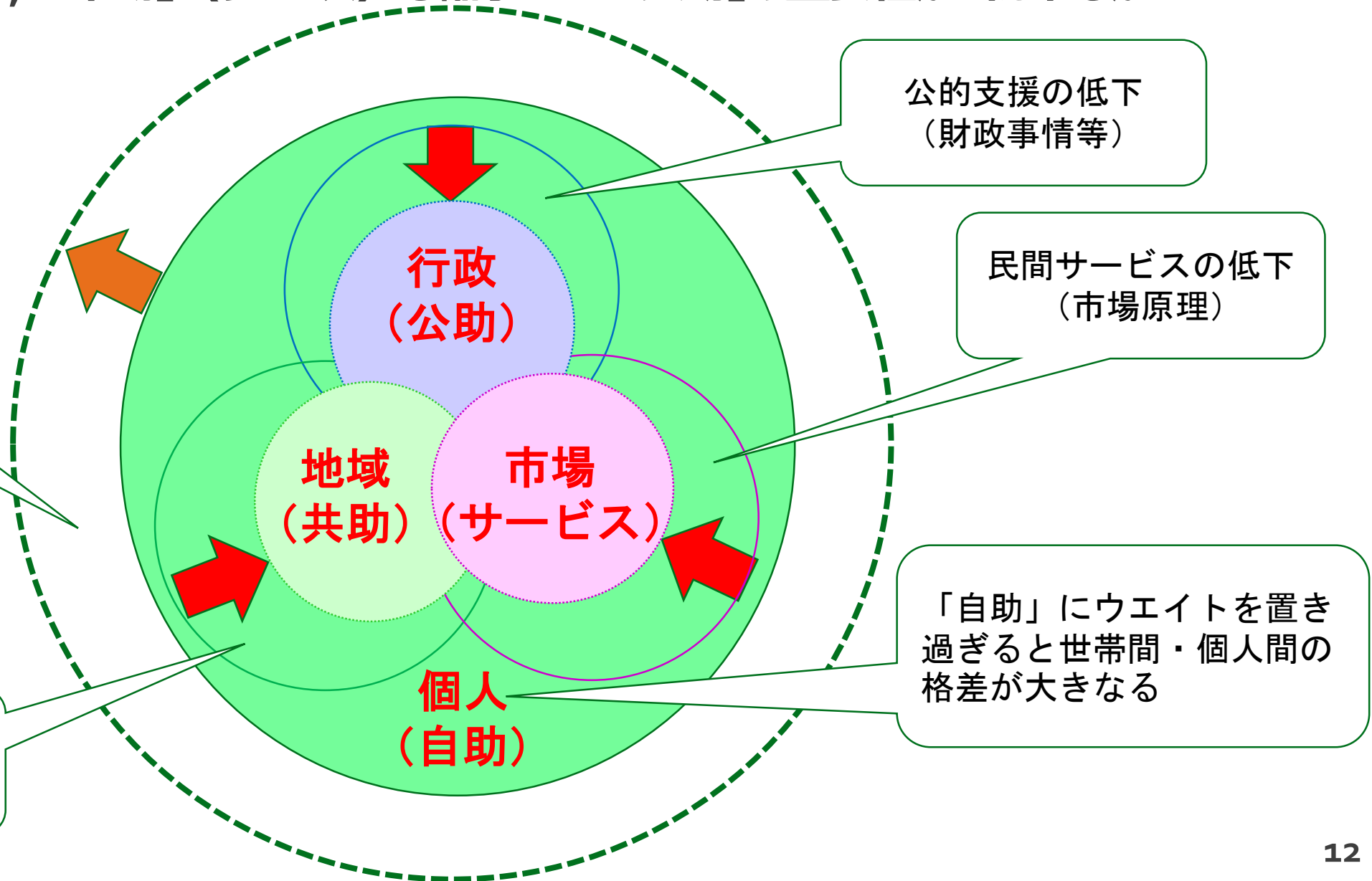
Ⅲ コミュニティの崩壊と住民自治機能の硬直化

「行政」(公助)も,「市場」(サービス)も縮小 → 「共助」の重要性が叫ばれるが……

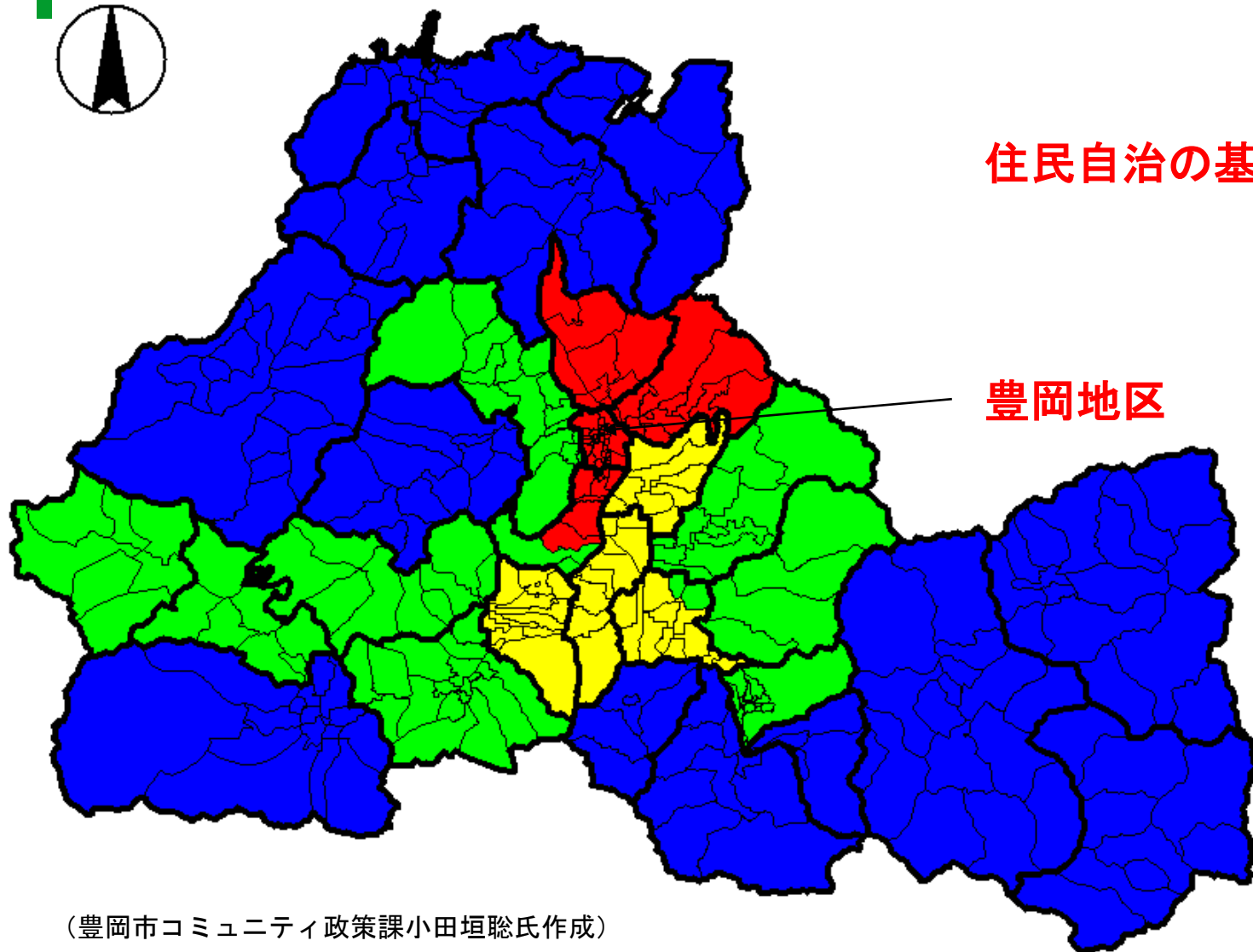
住民だけではなく
みんなで地域を守る
本当の意味の
「公助」が必要

時代の変化で
新たに増える
対応すべき要素

地域力の低下
(人口減少・
高齢化)

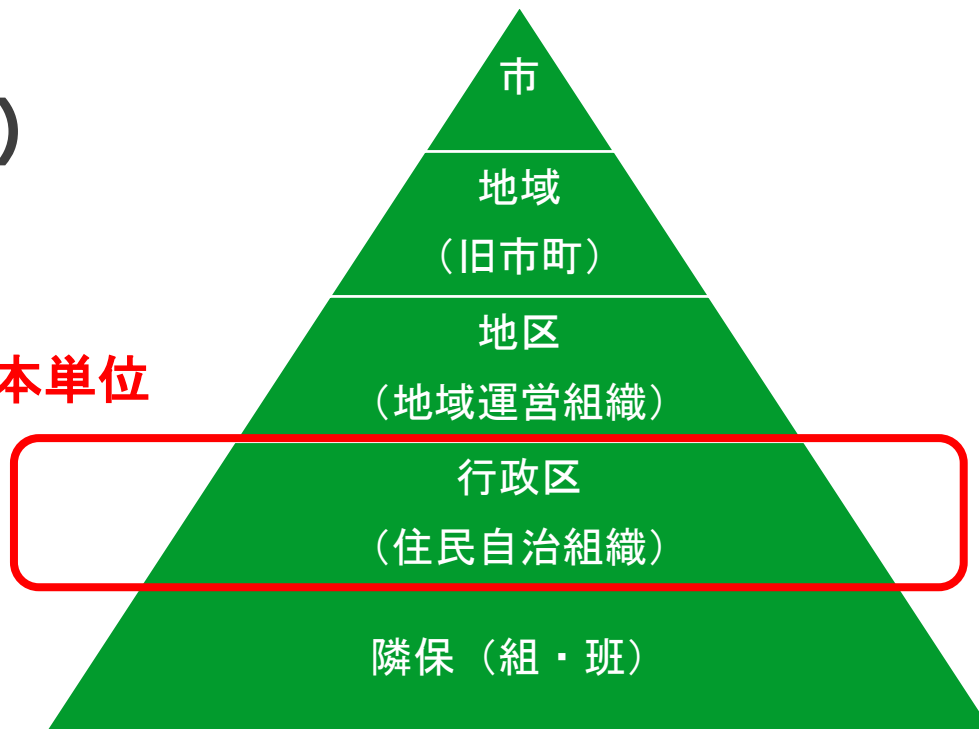


Ⅲ コミュニティの崩壊と住民自治機能の硬直化 兵庫県豊岡市の地域区分（地区別・行政区別）



住民自治の基本単位

豊岡地区



- 山間農業地域
- 中間農業地域
- 平地農業地域
- 都市的地域

豊岡市豊岡地区の概要

- 人口：8861人
- 世帯：4078世帯
- 高齢化率：36.6%
- 行政区：31区
- 位置：豊岡市中心市街地
- 成立：豊岡陣屋町の主要部
- 施設：豊岡市役所
豊岡市民会館
豊岡小・豊岡高校
豊岡図書館 等

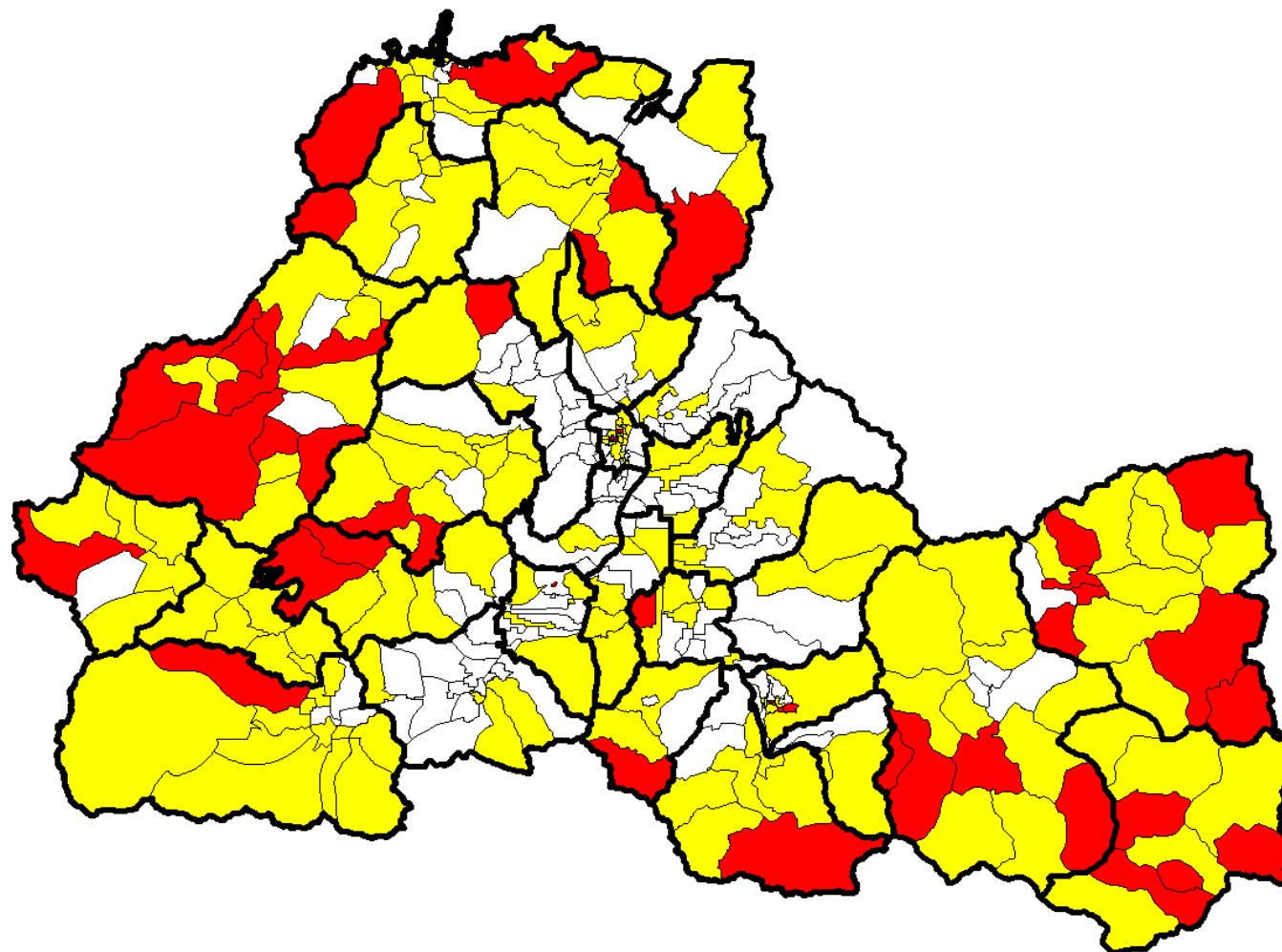
（豊岡市コミュニティ政策課小田垣聡氏作成）

農業地域類型

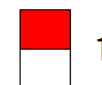
0 8km

Ⅲ コミュニティの崩壊と住民自治機能の硬直化

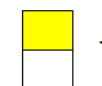
豊岡市の限界集落・準限界集落（行政区単位）（2019年4月1日・住民基本台帳）



H31限界集落



H31準限界集落

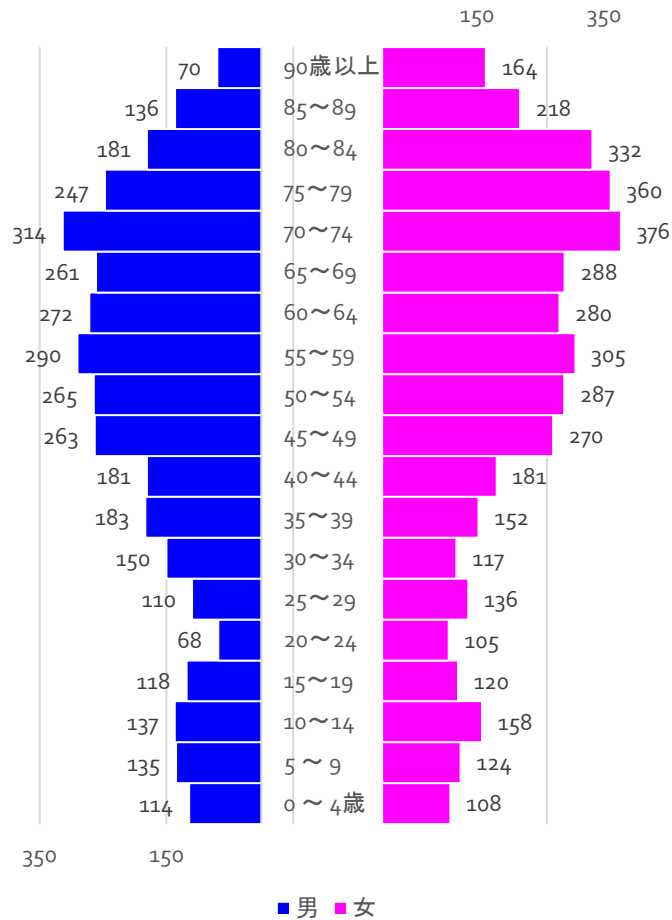


H31限界集落と準限界集落

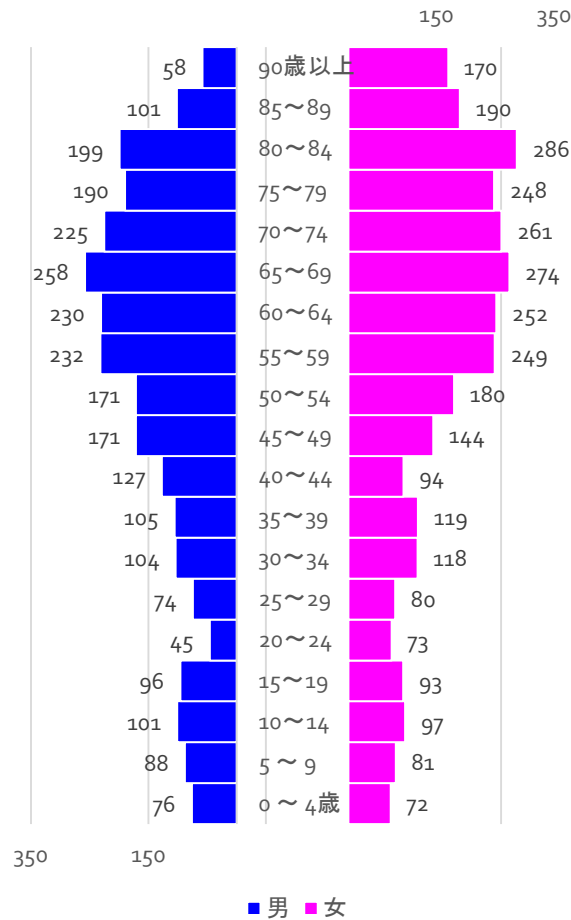
0 8km

Ⅲ コミュニティの崩壊と住民自治機能の硬直化 豊岡地区の人口推計に基づく人口ピラミッド

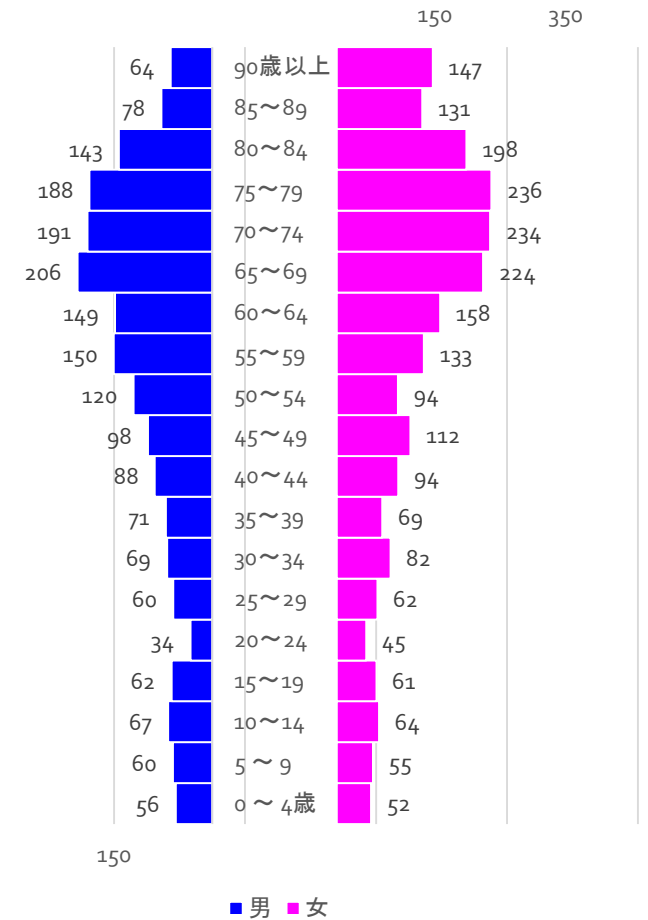
2020人口推計値



2030人口推計値



2040人口推計値

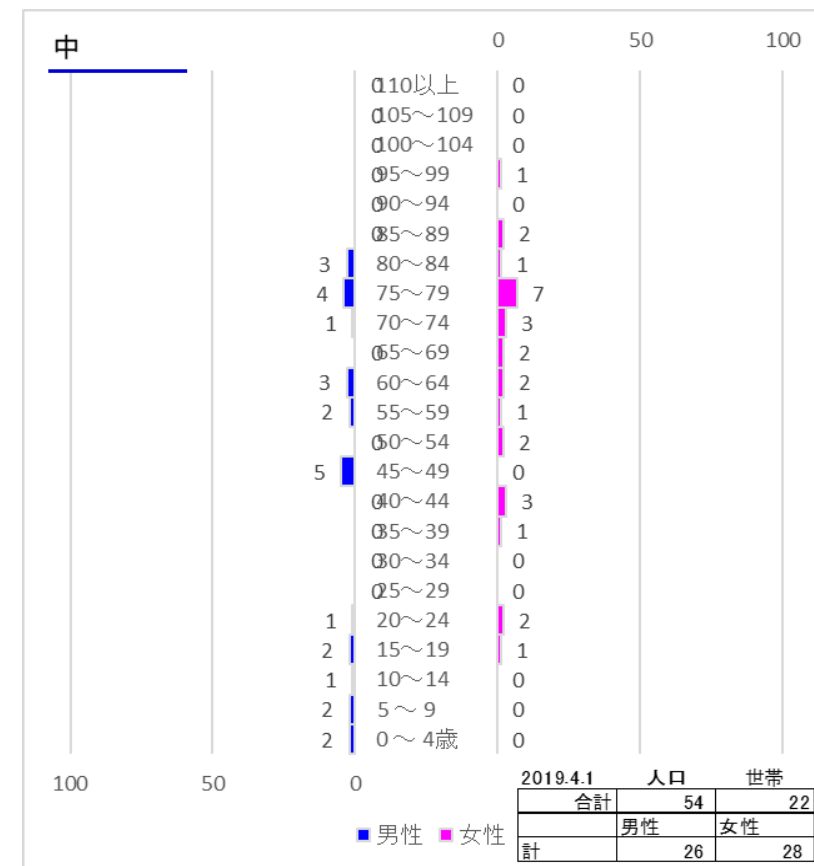
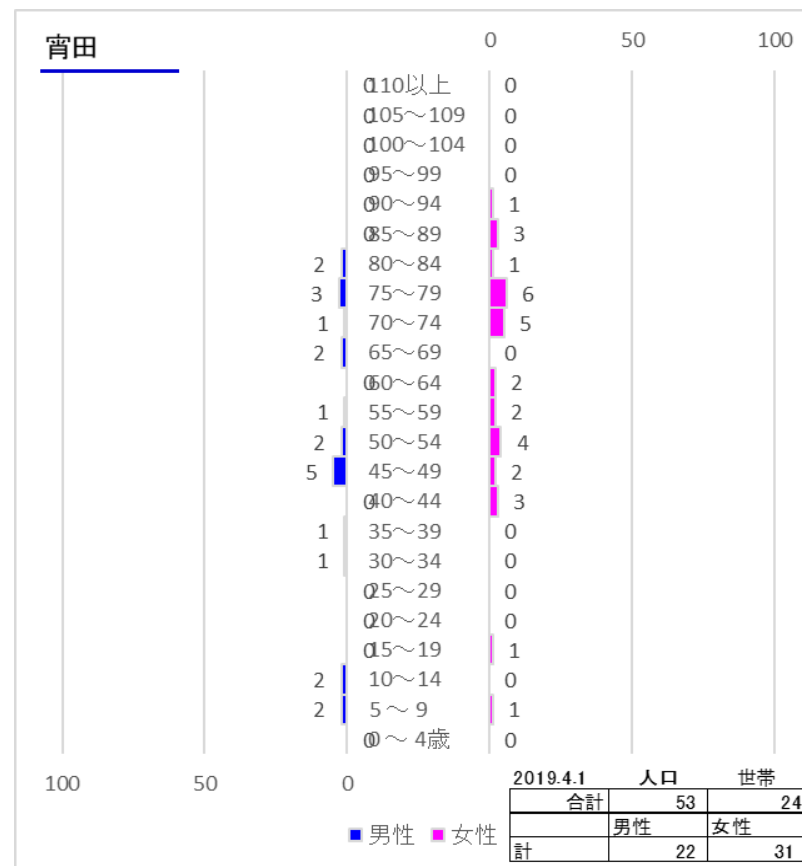
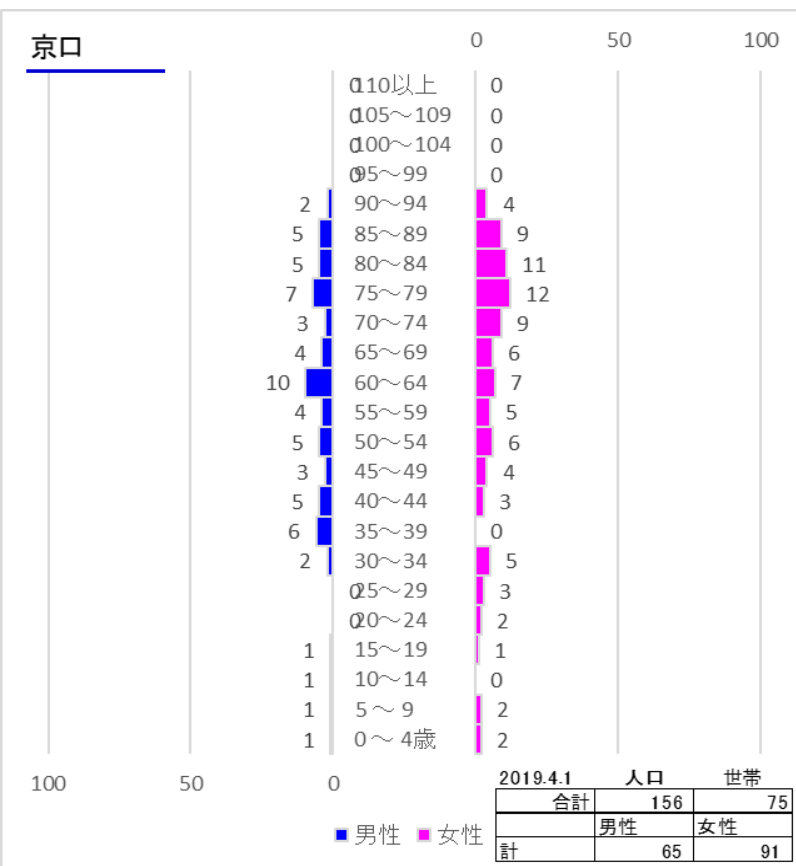


- 2020年：40代以下の極端な減少（推計値であることに注意），10代前半の再生産
- 2040年：全世代において人口減少（ただし、ある程度の人口再生産は行われる見込み）

（「豊岡市人口ビジョン」に基づく推計）

Ⅲ コミュニティの崩壊と住民自治機能の硬直化

豊岡地区行政区別の人口ピラミッド（2019年4月1日・住民基本台帳）



- 豊岡陣屋町形成以来の歴史ある中心市街地の行政区
- 30代以下の世代が極端に少なく、0人のコーホートも存在する
- 行政区（住民自治組織）のなり手がなく、区長一人が奮闘する状態が続いている



Ⅲ コミュニティの崩壊と住民自治組織の硬直化 住民のやり場のない「不安」が行政批判につながる

■住民の生活に関するつぶやき

町内に商店がなくなった。
自動販売機とATMだけ。

高齢になって自動車の運転
が不安になった。

二度と孤独死が出ないように
にしないとイケない。

親をグループホームに入れ
たいけど、順番待ち。

■支援する側のつぶやき

近所の人を車に乗せて買い
物に行きたいけど、遠慮さ
れるから誘いにくい。

男性をサロンに誘うけど、
なかなか来てくれない。



■住民自治に関するつぶやき

役員のなり手がいないから
自分がやらざるを得ない。

「名前だけでいいから役員
になって」と言った手前、
仕事は自分がやらざるを得
ない。

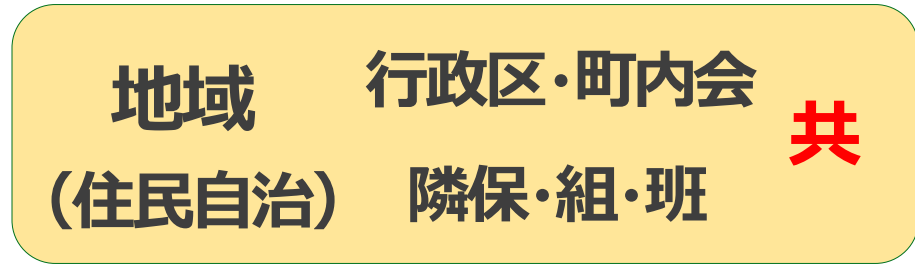
役所から配りものや調査も
のが山のように来る。

組織を改編しようにも、長
老たちの理解が得られな
い。

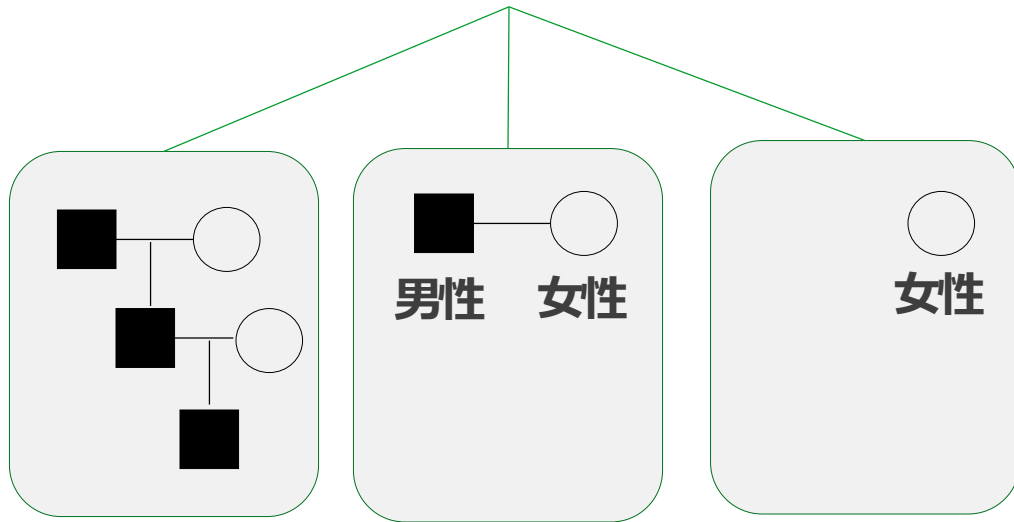
こうなったのも、全て行政
が悪いからだ。

自治会を解散して、全て行
政にやってもらおう。

Ⅲ コミュニティの崩壊と住民自治組織の硬直化 地域社会には変革が必要

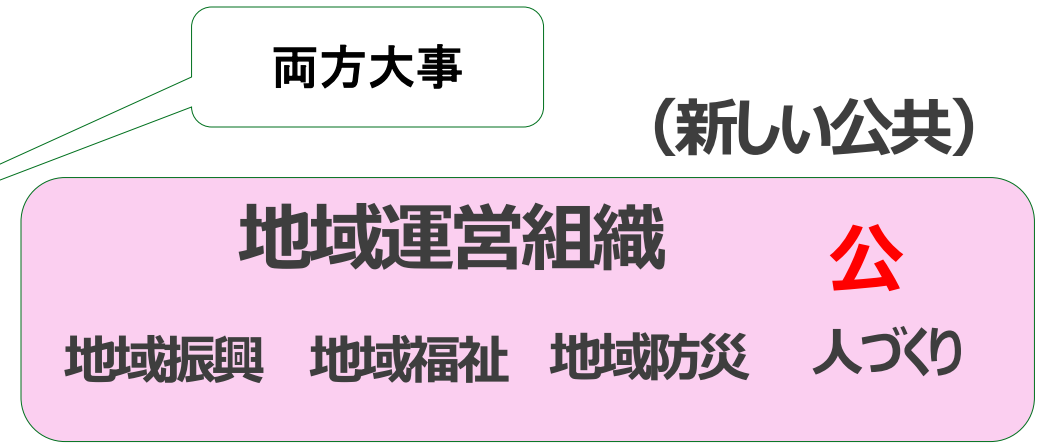


「イエ」の集まり



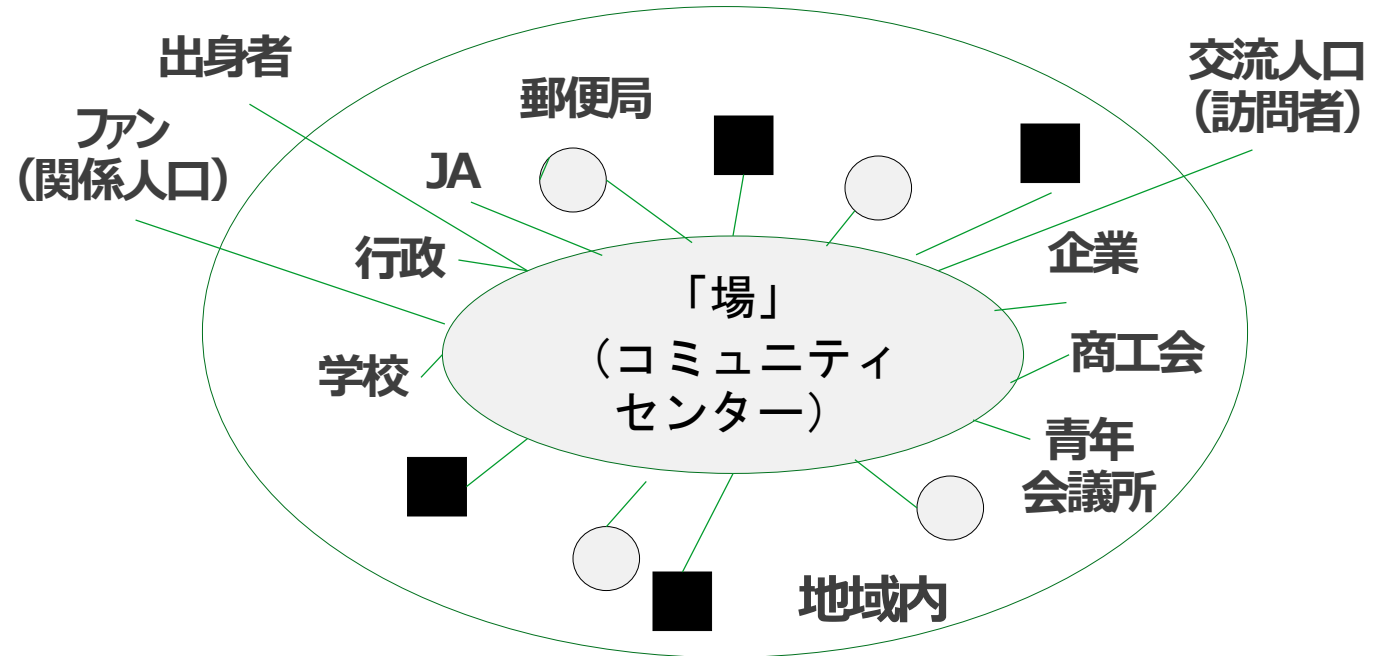
男性中心・伝統重視・強制的

満場一致の原則・一戸一票制



地域外

「人」の集まり



男女対等・緩やかな改革・選択的
緩やかな合意形成・一人一票制

IV おわりに ～これからの政治に求めること～

経済の相対化→「不便」なことが「不幸」ではない**社会づくり**

1 新しい時代の価値軸創出

【社会全体】

地域住民の「誇り」の醸成→持続可能な**地域づくり**

2 地域への「まなざし」の継続

【政治→地域】

地域住民のみによる改革の限界→柔軟な考えを有することのできる**人づくり**

3 人材の流動化・多様な主体の参画

【地域→政治】

住民にとって、**「先が見えない」ことが最も不安**

参議院自由民主党
不安に寄り添う政治のあり方勉強会

地域が有する「不安」の実態

